

スノーボード

こんにちは！国際交流員のステイブンです。2022年2月から開幕する北京2022冬季オリンピック・パラリンピック競技大会に向けて、冬季スポーツを紹介していきたいと思います！今回は1998年長野オリンピックで正式種目となったスノーボードを紹介します。



スノーボードは冬の山でサーフィンをしたいという願望から生まれたと言われています。サーフィンやスケートボードのように片足を前に横で乗って、雪の上面を滑るスポーツです。今使われている板はスケートボードに似ており、後方・前方が半円形で少し上に曲がっています。でもスケートボードやサーフィンと違い、足を「バインディング」という留め具でボードに固定します。スピードや回転のコントロールのために外周に金属のエッジがついています。

2022年北京オリンピックではビッグ・エア、ハーフパイプ、スノーボードクロス、スロープスタイル、パラレル大回転という種目があります。ビッグ・エアでは、選手が巨大なジャンプ台から飛んで、一発でなるべく難しくてスタイリッシュな技を披露します。2018年平昌オリンピックのジャンプ台は高さ49メートルで、のりこえると時速80キロにも達することがあります。ハーフパイプ、いわゆるスーパーパイプは坂を下った半円形のハーフパイプの中を左右に滑って、斜面を使って空中に飛んで技を繰り返します。スノーボードクロスは、様々な障害やジャンプ台が設置されたコースを4人が同時に滑って、相手選手を交わしながら坂の底まで競走する種目です。スロープスタイルでは様々なジャンプ台や手すりを設置し

たコースを滑り、なるべく多様な難しい技を披露します。パラレル大回転はトーナメント戦で行われ、2つの平行のコースで選手2人が競走し、コースに設置したゲートを通り抜けないとはいけません。

スノーボードは世界的に人気があり、強い国が多いですが、冬季オリンピックのスノーボードで2度の銀メダリストで、東京2020オリンピックのスケートボードにも出場した平野歩夢選手を含めて日本はメダル候補者が特に多いです。北京が最後のオリンピック出場と発表したオリンピックで金メダルを3つ獲得している、アメリカのショーン・ホワイト選手もメダリストの候補です。

パラリンピックではスノーボードクロスとバンクドスラロームが行われます。バンクドスラロームは曲がったり傾いたりするコースのゲートを通り抜けてゴールまでのタイムを競います。愛知県出身の小栗大地選手が同大会に出場内定しています。小栗選手は本市出身パラアスリートの鈴木隆太さんが立ち上げた Team Positive¹の一員でもあり、2018年平昌パラリンピックに出場し、スノーボードクロスで7位、バンクドスラロームで6位のフィニッシュを記録しました。パラリンピックのスノーボードにはクラスが3つあって、LL1とLL2は足に障害がある競技者のクラスでULは腕などに障害がある競技者のクラスです。小栗選手はLL1クラスで活躍しています。小栗選手をぜひ応援しましょう！

¹ Team Positive はスノーボードやスケートボードのようなアクションスポーツを通じて障がい者アスリートの応援や教育事業を行っている団体です。詳しくは www.teampositive.biz